

今後の人口推計と患者推計について

企画課 池上 信之

医療圏調査の一考察として、静岡市周辺の人口推計と患者推計について説明する。

I. 調査対象地域と現状

調査対象地域は静岡市を中心に東は富士市、西は島田市までで、総人口は145万人である。年齢別のシェアは14歳以下が14.2%、15～64歳が65.6%、65～74歳が11.3%、75歳以上が8.8%となっている。

また、医療の需要と供給のバランスをみると、静岡市周辺の一般病床では供給が7,500、需要が6,600で850の供給過多となっている。

静岡市を中心とした地域別患者割合は静岡医療圏が83%、富士が3.9%、志太が4.8%、その他が8.3%である。なお、当院の診療圏の割合は静岡医療圏が87%、富士が2.1%、志太が5.6%となっており、平均値より静岡医療圏の割合が若干高くなっている。

II. 将来人口推計

人口は徐々に減少し2040年には現在の71%となり、一方、高齢化率は徐々に上昇し、36%となると予測されている。ただし、全体の人口が減ってきているので、高齢者数も2020年にピークを迎え徐々に減少していく。

に減少していく。

患者数の推移をみると、入院患者は人口減少の影響と、平均在院日数の短縮もあり、徐々に減少し2040年には現在の75%となり、外来も89%となる。

III. 三大疾病（がん、心疾患、脳血管疾患）の患者数の予測

日本でも胃がんが減少し、欧米型がん（肺がん、乳がん、直腸がん、前立腺がん、食道がん）が増加し、放射線治療の割合の増加が予想されている。当院も、外来での放射線治療に注力すべきである。

心疾患と脳血管疾患も他の疾患の患者数減少に比べ、減少幅が少なく、外来は現在より増えていくと予想されている。（心疾患、脳血管疾患の入院患者数は現在の95%程度）

IV. ま と め

今後の人口の減少、在院日数の短縮を考慮すると、将来的にはダウンサイジングが必要であると思われる。

また、環境の変化、社会の変化に順応していくことが大切であり、がん等の国、県の診療計画に対応していくことが重要である。

診療録管理から診療情報管理へ

第二医事課 診療録管理係 田上 江里

I. はじめに

今年度、当院は病院機能評価 Ver.5 を受審した。病院機能評価では診療録管理部門は第4領域に属し、その評価内容は改定ごとにハードルが高くなっており、今回の Ver.5 では、紙媒体の診療録の管理方法から院内の診療情報管理の適切性までが問われるようになった。

1980（昭和55）年から始まった当院の診療録管

理も、時代の変遷に伴い業務内容が変化しているので、その業務について報告する。

II. 病院機能評価が求めるもの

4.16 診療録管理部門

- 4.16.1 診療録管理部門の体制が確立している
- 4.16.2 診療録が適切に管理されている
- 4.16.3 診療情報が適切に管理され活用されている